

令和3年度 第2回 西宮市立こども未来センター運営審議会 議事録

令和3年11月29日(月) 10時00分～12時00分

開催場所： こども未来センター4階 会議室

または オンライン参加

出席者：【委員】 <来所> 新澤 伸子、金高 玲子、古川 勝、河崎 満、北中 秀和

<オンライン> 本田 洋子、田村 三佳子、上野 武利

【事務局】 <来所> こども未来部長 大神

こども未来部参事兼地域・学校支援課係長 繁田

こども未来部発達支援課長 地行、同係長 穴山、寒河江、藤長

こども未来部診療事業課長 谷口、同係長 坂本

こども未来部地域・学校支援課長 金井、同係長 齊藤、多田

保健所地域保健課担当課長 中東

<オンライン> こども支援局長 時井、学校教育部長 漁、

こども未来部参事兼特別支援教育課長 原田

次 第： 議事 令和3年度事業内容について  
自己評価結果と分析について  
利用者向けアンケートについて  
関係施設向けアンケートについて

---

開 会

○ 開会

配布資料の確認、進行方法（オンライン併用）の確認

○ 議事

・傍聴希望者無し

【会長】

それでは、本日の次第に従い「議事1 令和3年度事業内容について」に関して、事務局から報告をお願いする。

【事務局】

資料集P.1～3に基づき、令和3年度事業内容について報告。

【委員】

資料によると診察について『緊急性があると会議で判断されたケースは診察を早める』とあるが、具体的にはどのようなケースを想定しているのか。

また、資料3ページ目の相談支援の項目で、『本人中心支援計画とセルフプランが共存する相談支援の仕組みを検討している』とあるが、セルフプランの児童が多い中、検討して頂いていることはありがたい。保護者の意向のみでなく、専門家の意見を踏まえながらのプラン作成について今後も検討を進めていただきたい。

#### 【事務局】

診察については、虐待が認められるケースなど、家庭に問題があり保護者支援も必要であると認められるケースについては会議を行った結果、診察を早めることがある。

#### 【委員】

『みやっこファイル』について、どの部門が担当となっていて、実際に活用がされているのか。保護者からはあまり活用の実態が見えてこないように感じている。

#### 【事務局】

『みやっこファイル』は10年以上前にみやっこ会議におけるこども部会のなかで作成し、活用に取り組んできたが、年月の経過とともに関係部局や関係施設の職員も入れ替わっており、当初作成した際にお知らせした趣旨がどこまで引き継がれているかということもあり、内容や広報の仕方について見直しを行っている最中である。未来センターとしてはみやっこファイルについて重要な支援ツールであると認識しており、みやっこファイル書き方教室を開催し、保護者への周知も行っているところ。

#### 【委員】

関係者がみやっこファイルを活用することは当然として、むしろ保護者自らが活用できるレベルにまで運用レベルを高めていくことこそが必要なことではないか。

#### 【委員】

みやっこファイルについては残念ながら保護者にはあまり浸透していない。どんなに素晴らしいものでも活用しないと意味が無いので、保護者に一方的に書きなさい・使いなさいと任せるだけではなく、様々な機関における利用をもっと促すことを進めていき、保護者サイドにも書くことのメリットを伝えながら、利用を促していくべきではないか。

#### 【委員】

こども部会でみやっこファイルのことを知ったが、そのファイルによってその子どものこれまでの成育歴も分かるため、利用する施設側にとっては大変便利なものである。一方で保護者によって書き方に差があることも多く、書き方や運用方法についてはもっと分かりやすいものになれば良いなと感じている。

#### 【会長】

やはり、保護者にとってのメリットが見えにくいことが一番の問題ではないか。こども部会で今後と

も議論を深めていただきたい。

**【会長】**

それでは、「議事2 自己評価結果と分析について」に関して、事務局から報告をお願いします。

**【事務局】**

資料集 P.4～10 に基づき、自己評価結果と分析について報告。

**【委員】**

前回の審議会において『自己評価の作業を通して職員の方々と話し合ってもらくことが一番大事』という話をしたが、今回の資料の通り、特に現場の職員からの貴重な意見について共有できたことはとても有益であったと記載して頂いており、とても嬉しく思う。

**【委員】**

自己評価はあくまでも評価の一つであり、今後の利用者アンケートや事業所向けアンケートの結果によって複合的に考えていくことになるのだろうが、専門性の項目について総務の項目において『専門性が強化されている』との評価結果があったが、『専門性』とは専門的な項目やジャンルが増えたということなのか、または個々の職員のスキルが向上したということなのか、どういう評価なのかつかめなかった。

未来センターは地域のスーパーバイズ機能やコンサルテーション機能といったレベルの高い権能が求められているが、今回のアウトリーチに関しての自己評価は、主に学校に対する評価が書かれており、事業所に対するアウトリーチの様子があまり記載されていない。そもそも児童発達支援センターとしては地域の事業所とのつながりを強くしていくことも役割の一つであるが、そのコンサルテーション機能を果たすための専門性の向上を図っていくことの手法が今回の自己評価からはあまり見えてこなかった。

『専門性が強化された』ということは何か研修を実施するなど、個々の専門性を高めたりすることが行われたのか。今後、未来センターのあり方を考えていく中で専門性の強化については生命線となっていくもの。各種のアンケートの結果を踏まえながら、今後とも検討していくしかないと感じている。

**【委員】**

未来センターの4つのコンセプトの一つとして『専門性の強化』があげられているが、未来センター職員の人員構成として正規の職員が少なく非正規の職員が多くなっている現状がある。大変大きな問題であり、この場で議論するようなことではないのかもしれないが、同じことが学校現場でも起きている。非正規採用によりコストを抑えることが目的なのだろうが、それが専門性を強化するという視点に立ったときに果たして良いことなのか。未来センターが掲げているコンセプトとは逆行する人員配置とはなっていないか。しっかりとこの問題についても目を向けていく必要があるのではないか。

**【会長】**

今までの話を総括すると、未来センターとしては専門性がかなりあるという自己評価となっているが、

内部からはどのような意見があったのか。もっと研修を行うべきという声とか、コンサルテーション機能を高めていくための職員配置が必要であるなど、人員面も含めて何か内部で話は出なかったのか。

#### 【委員】

専門性が高いという表現は何を基準にしているのか。全国的な指標がどこかにあり、それと比べて判断したのか。例えばアウトリーチ事業を始めとした他事業所をコンサルテーションする間接的支援については求められる専門性のレベルはかなり高い。発達障害に関する研究も日進月歩であり、最新の情報も日々変化しており、それらを踏まえ明確なエビデンスを持ったコンサルテーションを行っていくためには相応の専門性が求められる。つまり、それらの専門性を担保するための相応の育成システムが構築されていないとかなり難しいのではないかと。未来センターとして専門性が高いと判断された理由については伺っておきたい。

#### 【事務局】

診療所では経験年数はかなりのベテランの職員が揃っており、各部門とも学会や研修には積極的に参加しており、正規だけではなく非正規職員も同様の扱いとしている。また、どの職種についてもそれなりの人員数を確保しているというスケールメリットも大きく、内部での連携や相互研鑽といったことがよりスムーズに行いやすい体制である。個別のリハビリのレベルについてはある程度の水準に達しているという自己評価である一方、それを地域へ還元していくという観点ではまだまだ課題があると認識している。

#### 【会長】

それらの点については関係施設向けアンケートの項目を通して、アウトリーチの受け手側の施設はどのように感じておられるかについても見ながら、改めて議論するということになってくるのではないかと。

○ 休憩

#### 【会長】

それでは、次の「議事3 利用者向けアンケート」について、事務局から報告をお願いします。

#### 【事務局】

資料集P.11に基づき、利用者向けアンケートについて報告。

#### 【委員】

過去の利用者に対する周知についてはなかなか難しいが、手をつなぐ育成会においても周知について協力させて頂きたい。

#### 【事務局】

ぜひよろしくお願ひしたい。

**【会長】**

大変ありがたいお話で、今回のアンケートが過去の利用者を含めたアンケートであることに大きな意味がある。ホームページや市政ニュースでの周知以外で、ほかにも利用できそうなツールはないか。

**【委員】**

多くの事業所が集まる西児連を通じて周知することも方法の一つではないか。

**【会長】**

周知については事務局に一任したい。アンケートの内容についてのご意見は何かあるか。

**【委員】**

過去の利用者という話があったが、利用者の属性についてはアンケートの内容のどこで拾うのか。

**【事務局】**

例えば、利用者本人が成人した後にアンケートに回答した場合は『利用者本人』の属性で年齢が20歳以上という項目にチェックが入っていることになるため、過去に利用した方として拾う事が出来ると考えている。

**【委員】**

情報を集めるということは大事なことだが、どうしてもこのようなアンケートは回答の項目数が多くなりがちで、回答する側も負担に感じてしまう人もいるかもしれない。

**【会長】**

回答が必須の項目以外は飛ばして回答できるようになっているのか。

**【事務局】**

システム上では『必須』とされているものを回答しないと最終の送信ボタンをクリックした際にエラーとなる。しかし、『利用していない』と選択した部門の項目は自動的に回答不要となるため、全事業を利用された方は全て回答する必要があるものの、一般的にはそこまで負担ではないと考えている。

**【委員】**

今回のアンケートについては回答の仕方や周知の方法について色々と検討したが、内容としては利用者の満足度が主眼となっている。事務局として実際にはどの程度のアンケートの回答数を見込んでいるのか。

**【事務局】**

事前に回答用のIDを発行するアンケート形式であればIDの発行数が母集団となり、統計情報とし

てはとりやすいが、今回はそのような形式を取っていないため、あくまでも目標という位置付けにはなるが、事務局としては1,000件を超える回答となるよう広報等に取り組んでいきたいと考えている。なかなか難しいとは感じているが。

**【委員】**

1,000件はなかなか難しいと思うが、引き続き広報等に取り組んでいただければ。

**【会長】**

そこも大事な点である。今まで未来センターを利用された方の分母ほどの程度あるのか。

**【委員】**

未来センターになってからということであれば6年間の人数となるが、統計学としては母集団があってそこからの有効回答数というものを考えていくことが大事。統計的には母集団からの回答が4割あれば合格ラインで、6割以上あれば大成功ということになるのでは。その辺りも改めて検討したうえで、回答数が目標に達しないということであれば、広報を強化することや回答の締め切りを伸ばすということも選択肢としてはあるのではないか。

**【会長】**

回答する側の動機付けも大事なことではないか。回答することでどのようなメリットがあるのか明らかにすることも回答数を増やすことにつながるのではないか。

**【会長】**

設問2-(3)の『初めて未来センターへ相談されるまでのお気持ちについて』の回答3番目の『相談したらどうなるのか分からず、悩んだ』という項目が、回答する側からすると少し分かりにくいのではないか。

**【事務局】**

原案は『どんなところか（相談したらどうなるのか）分からず、悩んだ』としていた。括弧書きが少し回りくどいのではという意見もあり括弧の中を生かす形に修正したが、むしろ、未来センターがどんなところか分からず悩んでおられる方のほうが多いと考えるため、原案に戻すことにしたい。

**【委員】**

回答はオンラインのみとしているが、紙の調査票を置いておくほうがその場で回答してもらいやすいのではないか。

**【事務局】**

窓口で周知のチラシを配布することで対応したいと考えており、オンライン回答のみとさせて頂きたい。

**【委員】**

あくまでも提案として申し上げた。

**【会長】**

新型コロナウイルスの影響もあって、紙での回答が難しいという事情もあるのではないかと。

**【事務局】**

設問2－(4)の『今後とも子どもの悩みについて、未来センターの相談員に相談したいと思いますか』について、『今後とも～』という問いにしているため、回答の選択肢について『相談したい』を『今後とも相談したい』に、『相談したくない』を『今後は相談したくない』にそれぞれ修正したい。

**【事務局】**

設問3－(8)に『PT・OT・ST』と略語が記載されているが、少し分かりにくい可能性もあるため、『理学療法士・作業療法士・言語聴覚士』と変更したい。但し、『PT・OT・ST見学』という名称は事業名となっているため、『リハビリ見学（PT・OT・ST見学）』と記載することで明確化したい。

**【会長】**

修正について各委員から異存はないようなのでそのように修正して頂きたい。

それでは次の「議事4 関係施設向けアンケート」について、事務局から報告をお願いする。

**【事務局】**

資料集P.12～13に基づき、関係施設向けアンケートについて報告。

**【委員】**

アウトリーチ事業についての設問2－(2)に掲げられている各事業について、それぞれの事業の説明や言葉の定義の説明をしておかないと誤解を生じるのではないかと。今回のアンケートを通して、事業の内容を知ってもらうことにもつながるのではないかと。

**【事務局】**

設問の2－(2)から得られる統計結果としては『よく分からない』という回答をされる施設が非常に多いと考えているし、むしろそのような回答を頂くことになるだろう。結論から逆説的に考えるが、おそらくアウトリーチの種類や名称が分かりにくいという回答・意見を多数受けることはこちらも想定しており、『よく分からない』というご意見を踏まえ、未来センターとしても今後アウトリーチの横断的な整理と名称の変更を検討していきたい。つまり、現在の分かりにくい状態のアウトリーチ事業や枠組みについて今の段階で詳細な説明や広報を行っていくよりも、名称や枠組みについて審議会のご意見を頂きながら改めて整理した上で、新しい名称や仕組みについて各施設に積極的に広報を行っていくこ

とで補完したいと考えている。

**【委員】**

おっしゃっている内容は良く分かった。今後、改めて広報に取り組んで頂きたいと考えている。

**【委員】**

設問の2－(3)の施設を訪問する職員についても同じことになるのか。どの職種の方が訪問されたかについては分かりにくいことも多く、『分からない』という結果になると思われるが。

**【事務局】**

おっしゃられる通り。こちらからアウトリーチに訪問した際に職種を名乗って訪問しているケースもあれば、そうでないケースもあり、必ずしも施設側がどの職種が訪問したか明確でないケースもある。

**【委員】**

根本的にこの会議は何のためにしているのか良く分からない。決まったことはどんな意見を言っても変えないのか、それとも変える余地があるのか。説明を受けて意見を受けてもその意見が通ったことがない。会議の性格が良く分からない。

**【会長】**

議題として挙がっているものについてはこの場で審議することであり決定事項ではなく、ご意見を受けて変更すべき内容があれば変更は可能なので、積極的にご意見を頂ければ。

**【委員】**

アウトリーチについては本当に仕組みが分かりにくいと感じている。資料の説明書きも言葉足らずで分かりにくいのではないかと。もっと詳細に分かりやすく記載して頂きたいし、公募委員にも分かりやすいようにゆっくり説明をしてほしい。

**【会長】**

今回は議題も多く、説明する時間も少ないため、資料を事前に読んでいるという全体に立ってスタートしていることもあるが、もちろんアウトリーチ事業についてはなかなか複雑であり資料を読んだだけで理解しにくいのはおっしゃられる通り。先ほどの説明でもあったように未来センター内部としても分かりにくいと感じている部分もあり、どれくらいの関係施設が理解されているかということを確認するためのアンケートという意味もある。今回はあえてアウトリーチ事業について2－(2)の項目で説明書きを省略されているが、先ほども意見があったように、少しアウトリーチ事業について記述を増やすことも検討してみてもどうか。

**【委員】**

私は先ほどの説明で納得した部分もある。アンケートとは集計する側の感覚が一番大事だと考えてい



る。分かりにくいという指摘については、今回のアウトリーチ事業やアンケートについては関係施設が対象となっているため、その性格からある程度やむを得ない部分もある。しかし、審議会の委員には古くから参加している委員もいれば1期目・2期目の委員もおられ、今までの議論の経緯やバックボーンが分からないままここに来ている委員もいる。むしろ全員が同じ土俵・同じ水準で議論をする必要があるため、そのような配慮や分かりやすい記述が必要ではないか。その点は真摯に対応頂きたい。

**【事務局】**

事務局として配慮が足りず申し訳ない。頂いた意見を踏まえ、真摯に対応してまいりたい。

**【委員】**

今回の関係施設向けアンケートについては個々の具体的な事業を対象とせずアウトリーチ全体について尋ねるとい形式になっている点については、事務局としてもアウトリーチに対する問題点を認識されているとのことであり、形式については致し方ないが、むしろ結果が出た後のほうが大事であり、自己評価の結果や関係施設向けアンケートの結果についてもう一度読み解き、複合的に分析を行っていただき、未来センターの見直し事業がより実りあるものとなっていくことを期待している。

**【委員】**

やはり学校園においてもアウトリーチの種類については浸透していない。今回のアンケートを受けて改めて整理・検討を行っていく必要がある。そもそも未来センターの『アウトリーチ』という言葉聞いて内容を理解している人がどれだけ居るのか。事業を利用するのは子どもや保護者や学校園をはじめとした職員であり、今後は聞いただけである程度の内容が分かるような名称を使っていく必要があるだろう。

**【会長】**

利用者向けアンケートには最後にその他として全体の意見記述欄があるが、関係施設向けアンケートにそのような全体の意見欄が無いので追加するべきではないか。

**【事務局】**

そのようにさせて頂きたい。

**【委員】**

アンケートは無記名とのことだが、事業所が特定されるようなことはないのか。

**【事務局】**

一切ない。最初の施設類型以外は一切の情報は不要としているため、積極的にご意見を頂ければと考えている。但し、『頂いた意見に対する個別の回答はしない』旨の記述はさせて頂きたい。

**【会長】**

アンケートの周知は電子メールを使用するが、回答はシステムを使用するため、誰が回答したかは全く分からないようになっている。

**【委員】**

今回の審議会で本任期の審議会開催は終了となるのか。

**【事務局】**

新型コロナの影響で任期に変更があり、任期は令和4年7月末までとなっており、今任期中にあと2回の開催を予定し、令和4年4月及び7月に開催したい。また、その1ヶ月前にワーキングを開催することとしたい。

○ 次回開催予定等について案内し、閉会

---

閉 会

---